



編集／東濃厚生病院広報委員会

理念

歩みいる者に
やすらぎを
去り行く人に
幸せを

私たちは地域の皆様に愛され、親しまれ、そして信頼される病院を目指します。

看護部長就任挨拶
新任職員紹介
癒しの空間

行動目標

1. 私たちは日々研鑽に励み、患者さんの立場にたった質の高い医療の提供に努めます。
2. 全職員が患者さんの窓口となり、真心と笑顔で患者さんに接します。
3. 患者さんの言葉を最後まで聴き、患者さんが理解できるよう分かりやすい言葉で説明します。



東濃厚生病院 玄関ロータリー前の「いつくしみ」。子を大切に、愛おしく想う、母の心根が伝わってきます。

看護部長就任挨拶

加納 一二三



此の度、九月に
定年退職をされた
矢島広美看護部長
の後任として、創

立七〇周年を迎える東濃厚生病院
の看護部長に就任致しました。

近年、社会の目まぐるしい変化、

特に医療を取り巻く環境は厳しく
医師不足・看護師不足から医療危
機・医療崩壊とまで言われる状況
です。このような時代に看護部長

を受けるという大きな決断をしま
したが、何分未熟な私としまして
は看護管理者の重責に全身が引き
締まる思いです。しかし、これか

らは看護部長として看護部が一層
活性化できるように現場の声に耳
を傾け一人一人の看護職が「イキ
イキ」と働ける職場環境を作るた
めに以下のように取り組みたいと
考えています。

①看護師の確保と定着を重点とし
て入院基本料七対一看護を維持
していく。

②医療の進歩に伴った質の高い専
門性を兼ね備えた看護ケアの提
供とそれを実践できる看護師を
育成する。過去の知識や経験に
頼る看護でなく新しい知識や情
報が習得できる教育環境を提供
する。

③ワーク・ライフ・バランス（自
分の仕事と生活をバランスよく
調和させる）の実現をめざし職
場を整える。

④矢島看護部長の看護に対する熱
き思い「患者さんの心に沿った
温かい看護の提供」を受け継ぎ
伝えていく。

医療の高度化・複雑化・入院期
間の短縮化・在宅ケアへの移行な
ど医療環境の大きな変化に伴っ
て看護の役割は拡大し、看護への社
会的期待感は高まっています。安
全で安心な医療を提供し地域の皆
様より信頼される病院を目指して
努力致しますので、皆様のご支援・
ご協力をお願い致します。

新任職員紹介

赴任して二ヶ月がたって

内科 柴田 尚宏



九月一日付で、
東濃厚生病院に赴任
して、約二ヶ月が過
ぎようとしています。
前職場との違いに、

戸惑いつつ、再び患者様を診察するとい
う医者としての原点に戻り、緊張と喜び
に満ちた毎日を過しております。少し環
境にも慣れたのでしょうか、それまで
夢中に仕事をしていて気がつかなかった
病院のあちこちに展示してある絵画や工
芸品に、目が止まるようになりました。
中でもたまに目についたのは、富士山
を大きなスケールで描いた絵画でした。

富士山、そうです、二ヶ月前まで、この
富士山が見える職場にいたのだなと思い
めぐらしました。私は、こちらに赴任す
るまで、東京の武蔵村山市にある、厚生

労働省管轄下の研究所である、国立感染
症研究所細菌第二部に主任研究官として
十年間勤務していました。そこでの私の
主な仕事の内容は、日本薬局方に基づく
抗生物質の品質管理業務や薬剤耐性菌の
研究業務でした。耐性菌といえは、有名
なものでメチシリン体制黄色ブドウ球菌
(MRSA) やバンコマイシン耐性腸球
菌 (VRE) などのグラム陽性菌ですが、

近年、我が国では、患者様の高齢化臓器
移植、抗がん剤治療、ステロイドを用い
た治療といった、高度医療の発展に伴い、
グラム陰性桿菌による日和見感染症にお
ける薬剤耐性菌対策が求められつつあり
ます。私が扱っていた菌は、緑膿菌やセ
ラチア、大腸菌、肺炎桿菌といったグラ
ム陰性桿菌であり、研究業務として、薬
剤耐性機構や検出法の開発に携わってお
りました。基質特異性拡張型β-ラクタ
マーゼ (ESBLs) 産生菌や切り札的
抗菌薬である、カルバペネム系抗菌薬を
分解してしまう、メタロβ-ラクタマー
ゼ産生菌は、その遺伝子が伝達性プラス
ミッドに担われておることが明らかとなっ
ており、菌種を超えて拡散するおそれ
があります。さらにそれらの遺伝子はトラ
ンスポゾンやインテグロン、インサーショ
ンシークエンス (IS) といった構造に
担われて組み替えや移動を起こすことが
明らかになってきました。すでに我が国
では、各地の病院で、院内感染の様相を
呈しているケースも報告されつつありま
す。私は、今後いままでの研究経験を生
かし、基礎研究から臨床応用へと、臨床
現場での薬剤耐性菌対策に生かすことが
できればと思っております。今後ともよ
ろしくお願いいたします。

新任職員紹介

整形外科

磯部真一郎



東濃厚生病院にきてはや三か月もたちかなり環境に慣れてきました。

周りの方がみな

さんあまりにも親切で本当に仕事がいやらしい環境に驚いているのと同時にこれでもいいのかなと心配でもあります。自分勝手にならな

いように気をつけたいと思います。これまで毎日はいづめた精神状態で手術、重症患者のことばかり考えて全く気が休まる時間がありませんでした。その分周りがあまり見えなく、余裕ありませんでした。

瑞浪にきて驚きました。こんなすばらしい病院があるのかと。医者にとっても、患者にとっても本当にやさしい病院だと思います。いや優しいすぎる病院だと思います。一方であまりにも時間的に余裕がありません。しっかり勉強します。瑞浪に来て患者さんにできるだ

け向き合って細かい要望を聞くとおもって回診を心がけています。窓から見える景色にみとれ十分でないような気がします。

また看護師のかたをはじめとしてスタッフの患者様に対する真摯な姿勢、優しさに新鮮さを覚えると同時に、自分もしっかりしなければと戒めにも思えます。

「あの先生に診てもらってよかった。手術してもらってよかった。」と思われるように、ひとつひとつ特に手術などの処置は丁寧にやりたいと思います。もし雑だと思ったら怒ってください。患者さんに感謝されることが一番の自分としてのエネルギー源です。

どんなにしんどくても手術の後などに「ありがと」ございました。」と喜ばれると本当にうれしいです。瑞浪では特に感じます。前の病院では深夜の緊急手術後でもあまり言われませんでした。やりがいのある瑞浪で頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

新任職員紹介

総務課長兼事務次長

臼井 浩美



此の度の人事異動によりまして、十月より総務課にてお世話になることとなりました臼井と申します。

着任して十日余りが経ちましたが、東濃厚生病院での勤務が初めてと云う事もあって、院内を移動するにも右往左往しているような状況です。

ここに着任する前は、本所総務課で勤務していたことから、二年半ぶりの病院勤務となり、毎日が緊張の連続で仕事をしております。

実は、私の出身は岐阜市の隣町の本巣市です。回りは山と田畑に囲まれた、非常に穏やかな風景漂う町です。それを象徴するかのように本巣市には、みなさんも一度はお聞きになられたことがあると思いますが、桜で有名な「うすずみ桜」があります。現在は、この瑞浪にアパートを借りて一人住まい生活をしています。が、私の瑞浪の第一印象は、私の出身地と同じように非常に穏やかな町

だなあと感じています。病院から見渡す風景には、山もあれば田畑もあり、病院のすぐ脇には、滔々と流れる川もあります。心穏やかに住みやすい町だと感じながら日々過ごしています。

さて、話は変わりますが、最近ではテレビのニュースを見ている、新聞の記事を読んでいる、毎日のように医療に関することが目に飛び込んできます。医師不足・看護師不足による病院の閉鎖が伝えられ、地方の病院が今後どうなっていくのか。病院に勤務する私達ですら、今後の生活に不安を感じずにはいられない状況になっています。

東濃厚生病院にお世話になるにあたって、こうした現状の中で我々病院職員が出来ることは何か。日々自問自答しながら、病院の運営に携わっていきたくて考えております。簡単ではありますが、就任の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

「屋上庭園」

当院の南側、低層階（二階）の屋上に庭園があるのは、皆様ご存知でしょうか。当院に入院されたことのある方、お見舞いで来院されたことのある方は見たことがあると思います。

この屋上庭園は、二〇〇四年に病院の全面改築を実施し、昭和病院から東濃厚生病院に改名したときに設置いたしました。

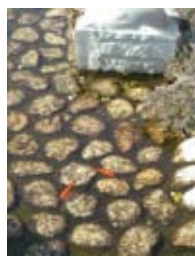
最近では、地球温暖化対策や、癒しの環境づくりを目的に病院等新築時に屋上に庭園を設置されることが多くなりました。五年目を迎えた現在でも、管理を外部に委託することなく、熱心な職員の丁寧な管理で素晴らしい景観を造りだしています。

一周一〇〇メートルの木道は車椅子が余裕をもってすれ違える幅とし、中央に茶室をイメージした四阿^{あふまや}を置き、その中に水琴窟を設置、耳をそばだてれば微かな心地よい音色を楽しむことができます。

四阿の周囲を螺旋状に取り囲むように「せせらぎ」を



四阿の中央「水琴窟」



「メダカ」



「水車」



6階から見た庭園、黄色は「セダム」の花

癒しの空間

管理課

造り、水車が配置されています。『せせらぎ』の一部には堰を設け、メダカを放しています。食い入るように見ている人の姿をよく目にします。メダカは最近では珍しく特に高齢者の方にとって懐かし、心の癒しになっているようです。

植物についても、四季を通じて何らかの花が咲いているように工夫しており、特に四阿が茶室風であることから茶人の好むツバキを十五品種、ムクゲ二品種が植わっています。これは、「冬はツバキ、夏はムクゲ」と茶の世界で古くから言い伝えられていることによるものです。春になって真っ先に咲くマンサク、つづいてサンシュユ、日本列島の中でも東濃地区とその周辺にしか自生していないシデコブシを入れ、初春の、時の『うつろい』を感じていただけるようにしました。庭園の中央部には、芝生の配置を考えましたが、冬、葉が枯れてしまうことから寒くなっても緑を保つセダムとしました。芝生と違って五月には花をさかせ、まるで黄



「紅唐子」(日光)



瑞浪市の花「キキョウ」



満開の「アメリカアジサイ」



クリスマスシーズンのイルミネーション



南側病棟から見た冬の「屋上庭園」



「瑞浪市陶芸協会作品展」



「JAひがしみの 押し花展」

色の絨毯のようになり素晴らしい景観となります。真夏には真っ白な花を豪快にさかせるアメリカアジサイ、つづいて紫の花に蝶々が集まってくるバタフライブッシュが秋まで咲き瑞浪市の市の花・キキョウも木道の脇で負けじと咲き誇ります。一部、足ツボマッサージができるように石の小道も造り、患者さんに利用していただけるようになっています。最後に一周一〇〇メートルの木道を散歩する人達、患者さんの安寧を祈って「道行き」の守り神「道祖神」を据えました。芭蕉の『奥の細道』からヒントを得たものです。



患者さんの安寧を願う「道祖神」

ギャラリー『やすらぎ』

屋上庭園と並び当院には、ギャラリー『やすらぎ』があります。「写真」「陶芸」など一般の方に、一ヶ月間に亘り作品を紹介していただいております。病院に訪れた方に、名前のとおり「やすらぎ」を感じて頂いております。場所は正面玄関を入ってすぐの階段を上がった、左手にあります。病院の中にある施設とは思えない本格的なギャラリーですので、ご来院の際は是非、足を運んでみてください。又、私はこんな趣味をもっていて、作品を紹介する場所を探していたという方、一度ご連絡ください。但し、現在来年の三月までと、五月は予定が入っていますので、ご了承ください。

連絡先

東濃厚生病院 総務課 TEL 〇五七二一六八一四二一